



読者ふれあいページ

「こちら虹」は楽しかったこと、感動
ことを教えてください。「お助け倶楽部
アイデアやお知恵をお寄せください。総
電話番号を明記ください。電話は土、日

冥土の土産

出雲市斐川町・仁照寺住職

江角 弘道

一休和尚の狂歌に「門松は冥土の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし」というのがあります。冥土とは、あの世のことです。私たちは、一年ごとに死が近づいてきます。つまり冥土へ旅立つ準備をしています。めでたい正月に建てる門松は、その旅の一年区切りの目印だということです。毎年、本山参拝の旅に檀家の人たちが出かけます。旅から帰る時、例外なく皆さん、土産を買って帰りま

混迷・生きる

教えの庭から

ちゃん 冥土の土産は どの行った所業の善悪を判断し
ここで買う」というのがあり 審議されると言われています。
ました。ある日の法事の席
では、「冥土の土産を何に 白隠禅師作の「地獄極楽
するか」と話していたと 変相図」を拝見すると、三
き、小学生が、「僕は、お 十五日目の審判官である閻
いしいまんじゅうにしま 魔王の前に天秤がありま



す」と笑顔で言いました。
そこで、「冥土にはお金で 買ったモノは、持っていけ
ないよ」と答えました。
わが国では、十三仏信仰
があり、死者は、死後四十
九日間に七日ごとに現世で

われています。

10年前に、島根県立美術
館であったエジプト展を見
に行った時、これとよく似
た天秤の図が、エジプトの
「死者の書」の中にあるこ
とを発見しました。

これは、自らの心臓と真
理の象徴であるダチョウの
羽(女神マアトの象徴)一
を天秤にかけています。羽
と心臓を秤にかけてること
は、死者の生前の心遣いが
天の神の心になうもので
あったのなら、天に飛び帰
ることができるとの意味が
込められているそうです。

この死後にある審判の思
想は、元来インドにはなく、
また中国にもなかったそう
です。それは、西アジアに
由来する思想であり、エジ
プトに伝わったそうです。
それがギリシャやインドに
も知られ、やがて中国にも
伝わり、日本へと伝わった
と考えられています。

天秤の語源として、天へ
の便(信仰生活)の分量が
うのでしょうか。

明らかにされる、人間が天
に迎えられるか否かの判定
をするという意味があると
のことです。
このように、洋の東西を
問わず、あの世に行くとき
に生前の生活の質について
審判があるようです。だか
ら、良き生活内容が、冥土
の土産となることではし
ょう。